

## 2023年度I期キャリアチャレンジ（山梨県小菅村）の募集について

担当教員：朝比奈茂

### 1. コース名

「山梨県小菅村における持続可能な山村づくり」

### 2. 目的

本研修は、2017年3月に締結された法政大学と山梨県小菅村の交流・連携協定に基づいて、多摩川源流地域の山村における持続可能な地域社会の可能性を模索する域学連携事業の一環として実施します。

都市生活者である学生が、村人（むらびと）生活というライフキャリアにおける貴重な経験を送りながら、行政やNPOの協力で、山村づくりにコミットしながら、地域の方々、移住者、村職員などとの交流を通じ、またNPOのインターンとしての業務サポートなどに参加することで、人間的成長の機会とします。

小菅村は、様々なむらづくりを展開していることで有名です。従来からの、源流体験、イワナやヤマメなど川魚の養殖、こんにゃくやわさび栽培、村営温泉、道の駅、アドベンチャー施設の建設に加えて、地ビールとジビエ料理など新たな食の魅力の開発、住民も参加する観光地経営（ディステーション・マネジメント）にも取り組んでいます。

人口652人（2023年4月末時点）の山村ですが、定住人口の維持とともに、観光などを通じた交流人口（3分の1村民）と、むらづくりにかかわる関係人口（2分の1村民）を増やし、多摩川源流域の環境・文化の保全と地域経済の振興の両立を図っています。

これまでのむらづくりにより、毎年、環境体験学習で多くの子ども達が訪れ、近年は山村留学のための家族連れの移住者も増えています。そして、法政大学を含む東京の複数の大学の学生も学びに訪れ、地域起こし協力隊により新たな人材も集まってきています。

限られた期間ですが、持続可能な小菅に向けた関係人口になることをミッションとします。

### 3. 受け入れ団体

山梨県小菅村 : <http://www.vill.kosuge.yamanashi.jp/>

NPO 法人多摩源流こすげ : <https://npokosuge.jp/>

### 4. 対象学生と人数

2年生以上で6～8名程度とします。 ※全てのコースの学生に推奨します。

### 5. 時期と日数

事前研修：7月～8月初旬かけて、対面またはオンラインで1～2回程度行います。

詳細は参加者にメールでお知らせします。

現地研修：8月21日（月）～8月27日（日）までの6泊7日間

事後報告：9月～10月に報告会を行います。

日 数：現地研修は7日間、事前学習1～2回、事後学習1回とします。

## 6. 行 程 ※以下は予定であり、詳細は事前学習の際にお知らせします。

- 8/21（月） 午後：入村式と村の概要についての研修、終了後村内を視察します。
- 8/22（火） NPO法人「多摩源流こすげ」など関係団体の業務に関する研修を受けます。
- 8/23（水） 地域住民及び移住者の方々から、村の生活や仕事について学びます。
- 8/24（木） 前日の内容に加えて、NPO法人多摩源流こすげのアドバイザーでもある人間環境学部小島聡教授より、地域住民、役場職員、NPO職員などと一緒に講義を受け、またワークショップなども行う予定です。
- 8/25（金） NPO法人でインターンシップを行います（業務全般）。
- 8/26（土） NPO法人でインターンシップを行います（農作業体験）。
- 8/27（日） NPO法人でインターンシップを行います（源流体験）。午後：離村式

## 7. 応募と選考

応募方法：募集期間は5月26日（金）～6月8日（木）23時55分です。

参加希望者は、以下の手順で応募して下さい。

- ① 学部ホームページから志望調査票をダウンロードする。
- ② Hoppii上に仮登録する。
- ③ Hoppii上の「課題」に志望調査票を提出する。

選 考：志望調査票と面接（対面またはオンライン）により選考を行います。

6月14日（水）にHoppii上に結果を発表致します（予定）。

説明会：開催予定はありません。

個別のメール問い合わせや面談希望（対面またはオンライン）に応じます。

## 8. 参加費用

自宅から現地までの交通費（JR中央線大月駅から路線バス）のほか、自炊費用（1万円程度）+村内生活費の合計で2万円程度の予定です。

### 【宿泊について】

研修期間中は、NPO法人が提供してくれる施設で自炊生活を行います（男性と女性は異なる施設です）。詳細については、参加者が決定したのち、事前研修でお伝えします。

## 9. その他

本コースに関する質問等については、担当教員まで連絡をしてください。

連絡先：asahina@hosei.ac.jp（人間環境学部 教員 朝比奈茂） 以上